

# 図書だより

第55号  
平成25年11月29日  
呉工業高等専門学校  
図書館  
<http://wwwlib.kure-nct.ac.jp>



高専の夏 (撮影：呉高専建築学科1年 杉原芽依)

## 目次

・ 巻頭文 電子書籍	.....	図書館長 笠井 聖二	2
・ 読書のすすめ			
読書のいろいろ	.....	人文社会系分野 川崎 由花	3
チャレンジ精神を忘れずに!	.....	自然科学系分野 川勝 望	4
本との出会い	.....	自然科学系分野 田中 慎一	5
読書と私	.....	機械工学分野 尾川 茂	6
いろんな角度から読むと活字は面白い	.....	機械工学分野 西坂 強	7
本との出会い方・楽しみ方	.....	電気情報工学分野 山脇 正雄	8
考察力を高める読書	.....	環境都市工学分野 谷川 大輔	9
・ 行事報告 平成25年度第1回ブックハンティング	.....	学生会 文化・環境委員長 西岡 伸健	10
ブックハンティング図書紹介			
第1回ブックハンティング購入図書リスト			
・ お知らせ	.....	図書館	12
平成24年度図書館貸出状況			
・ 編集後記	.....		12

## 巻頭文

## 電子書籍

図書館長 笠井 聖二

最近、よく「電子書籍」という言葉を耳にするとおもいます。スマートフォンを持っている人は、既に電子書籍を使っている人も多いのではないのでしょうか。私の携帯は、俗にいう「ガラ携」で、これまで電子書籍を利用していませんでしたが、タブレットを購入したので、早速、電子書籍を購入してみました。

何といっても、ダウンロードすれば、待たずに直ぐに読めるのが便利です。最初は、狭い画面の中で読むのに違和感がありましたが、直ぐに慣れました。字の大きさが変えられるので、老眼気味の私でも、字を大きくして楽に読めます。背景の色や行の間隔なども変えられるので、今は、背景を黒で白抜き字にして読んでいます。

読み易さだけではなく、ラインマーカーで線を引いたり、付箋を貼りつけるような機能もあります。それら機能を使って印をつけた箇所を、一覧で見ることができるので、必要箇所を簡単に読み返し確認でき、便利です。逆に、印をつけていない気になった箇所を探すのは、本の方が楽のような気がします。本の場合、読み進むのに合わせ、ページの厚さから、自然と読んでいる場所と内容を実感的に記憶しているように思えます。そして、パラパラとめくりながら、少しの時間をかけ感覚的に探し出すことも、本の方が行い易いと言えます。

現状では、「機能は電子書籍、感覚は本」というところでしょうか。本と電子書籍は、対立するものでもありませんし、どちらが良いか優劣を決める必要のものでもありません。この2つを上手く使っていくことが大切です。

「感覚は本」と書きましたが、これは「本」という媒体の特徴かもしれませんが、実は、単に私たちの慣れの問題かもしれません。小さいころから「本」を読む経験を数多くしているのだから、自然と「本」に対する対応の仕方が自分なりに決まり、それが読むときの「感覚」となっているだけかもしれません。そうだとすると、「電子書籍」を読む経験を積み重ねることも必要ではないのでしょうか。きっと「電子書籍」は一時の流行ではなく、これからより普及していくものと思われます。「電子書籍」という新しいものを使う、そして、使わなくては行かないわけですから、「電子書籍」を読む数多くの経験をしながら、「電子書籍」に対する自分なり流儀を身に着けることは、意外と大切なことかもしれません。

個人だけではなく、図書館も「電子書籍」に対する経験がほとんどありません。図書館の利用規則などをデジタル化しタブレットで利用できるようにすることに挑戦していますが、まだサービスとして提供するには至っていません。学内にも、電子書籍を購入・利用したいという声がありますが、経験不足から規則・管理方法などが整っておらず、まだ、対応が難しいのが実情です。図書館は、「電子書籍」に対する経験を積み重ねながら、できるだけ早く「電子書籍」を利用できる環境を提供していきたいと考えています。一緒に「電子書籍」に対する経験を積んでいきましょう。

## 読書のすすめ

## 読書のいろいろ

人文社会系分野 川崎 由花

私は本の背表紙を眺めるのが好きである。在米時代には、年に数回訪れるNYの日系大型書店で、背表紙を見て何時間も過ごしたものだ。目を引くタイトルがあると目次を読み、パラパラとページをめくっては買おうか買わないか悩みながら贅沢な時間を楽しむのである。しかし、インターネットで簡単に買える物ができる今日とは違って、当時は、新刊書などはここで買っておかななくては次の次いつ手に入るかわからない。そう考えるとついお買い上げとなり、一度に大量の本を購入するわけだ。そんな軽い気持ちで入手したために、中には読まずに積んでおく、いわゆる『積読』になったものも少なくない。結果として、研究室の書棚に収めた後、またまた背表紙を眺めて楽しむ……いやはお恥ずかしい悪習慣である。

先ほど「新刊書」と申し上げたのは次のような事情によるものだ。アメリカの大学、特に研究中心の大学の図書館は非常に充実しており、外国のものであってもかなりの本が所蔵されている。日本の明治・大正の文学などは全集が入っており、その周辺の学術書に至るまで、あるとあらゆる書物がそろっているといっても過言ではない。とにかく蔵書数が多いのだ。私が勤めていたコーネル大学は820万冊で全米大学13位（American Library Association、2012）、日本では1位の東京大学が920万冊、2位の京都大学が660万冊（日本の図書館統計と名簿、2012）であるから、どれだけ多いか想像できよう。大学のランク付けをする際にアメリカでは蔵書数を考慮することもあるくらい図書館は重要なキーポイント、留学を考えている皆さん、そのあたりも研究してみてくださいね。

さてさて、徒然なるままに筆を運んでいても我が読書考とはならないので、少しばかり本当に読んだ『読書』について記そう。私が人生で一番多く本を読んだのは学生時代である。手当たり次第に読んだ。ジャンルに関係なく小説やエッセイ、専門書では自分自身の専門である英米文学だけでなく、一般教養科目の「法学憲法」で副教材として指定された『小六法』なども含めて、読み漁った。電車やバスの中、待ち時間、歩きながら……時間さえあれば活字を追っていた。内容を楽しむことや情報を得ることに加

えてその時私が何をしていたかという、言葉の勉強、そう、日本語の勉強である。それほど意識をしていたわけではないけれど、言葉の意味を文章の中で読み取ったり、漢字の読み方を知ったり、読書を通して自然に学んだことは少なくない。時には「この表現は今度使ってやろう」と心に留め置き、実際に使っては意気揚々としていた。今でいう「どや顔」をしていたかと思うと、穴があったら入りたいくらいだが、しかし、このころに大人の日本語を学んだのは確かである。

また、「読まなければ書けない」とは、イギリスのある通信社に勤務し、英語で記事を書いていた日本人の知人の話である。彼女は仕事が早朝に始まり午前中で終わるため、午後は社内にある図書室で過ごしていたそうだ。読むことで書く力を高める、これが彼女がプロとして実践していたトレーニングである。なるほど！納得はできる。がしかし、だからと言って学生時代に多くを読んだ私が、長けた日本語が書けるかという、必ずしもそうではない。なぜなら、私の場合の多読は一過性のものであり、その後は仕事や研究に必要なものを斜め読みする毎日、悲しいかな、皆さんにお勧めできるようなスタイルの読書はお預けになっているからである。もっと読まなきゃなあ。。

最後に、これまでの人生において感動した楽しい『読書』を少し紹介しておこう。その一つは立原正秋。ちょうど彼が亡くなったころに受けていた英文学の授業の先生が彼の友人であり、立原にまつわるいろいろなお話をしてくださった。臨場感あふれる実際のお話にいたく感動し、それからしばらくは立原正秋に没頭してしまったのである。立原作品は彼自身「純文学と大衆文学の両刀使い」と称しているように、大衆文学の色合いを含むためか文章が読みやすい。しかし、私を彼の作品へと駆り立てていったのは、何にもまして、描写の美しさだろう。景色であったり、陶器であったり、読んでいるだけで美しさが伝わってくるのだ。その何とも言えない世界が心地よく、知らず知らずのうちに夢中になってしまった。

小説を読むということは、読者自身が監督となり、自分の内なる世界で脚色をしながら物語を展開させていくこと、私の場合は自分自身の立原作品を作り上げていた。『残りの雪』『春の鐘』を映画で見たときには、本で読んだ私の立原とはずいぶん違った作品になっており、映画に対して「おお、そうきたか！」などと生意気な感想を持ったものだ。このあたりも読書の楽しいところであろうか。

**チャレンジ精神を忘れずに！**

自然科学系分野 川勝 望

本に関する随想を依頼され、何を書いたら良いのだろうかと悩みましたが、皆さんが将来の進路を決める参考になればと思い、海外での研究を後押ししてくれた本を紹介したいと思います。

私は天文学の研究をしています。研究を続けるかどうか非常に悩んだことがありました。それは博士課程3年の時です。この時、研究は順調に進んでおり、研究することは楽しかったのですが、博士号を取得した後も研究を続けるか悩んでいました。というのも、自然科学の分野では、博士号を取ったからと言ってすぐに大学や研究所で職を得ることは難しかったからです。天文学の分野では、数年ほど任期付の研究者をすることが通例です。

丁度その頃、博士課程に入ってから取り掛かっていた学術論文がようやく受理され、一息ついていました。受理されて数日後には、イタリアの研究者から「あなたの論文に興味深く読みました。私たちが行っている研究と密接に関係するので、ぜひ一度セミナーに来てもらえませんか。」というメールを受け取りました。研究成果が評価され、うれしかったのですが、英語の苦手な私にとって「イタリアでの発表」はハードルの高いものでした。しかし、このようなチャンスは2度と来ないかもしれないので、思い切ってイタリアの研究所でセミナーをすることにしました。海外での研究発表は初めてでしたので、非常に緊張しました。完全アウェーでの講演をなん

とか無事(?) 終え、招待して下さった研究者と議論をしていたときに、「博士号を取ったら、こちらに来て共同研究をしないか」という誘いを受けました。非常に思いがけないことだったので、帰国後、指導教官や先輩に相談しましたが、最終的には自分が決めなくてはならず、どうしたものかと悩んでいました。そんな時に出会ったのが、須賀敦子の「トリエステの坂道 (1995)」です。読むきっかけは単純で、訪問した研究所がイタリアのトリエステという町にあり、その町の雰囲気を知っておきたかったからです。読み進めていくと、トリエステは、アドリア海と山々に囲まれた土地にあること、年配者が定年後にのんびり生活する町であること、冬にはアルプスからの吹き降ろす強風(イタリアでは、“ボラ(Bora)”と呼ばれます)のため、坂道の至る所に手すりがあることなどを知りました。さらに、著者が戦後まもない時期に単身でイタリアへ渡り、長年、異国の地イタリアで翻訳の仕事に奔走してきた経験談から、様々な逆境をどのように乗り越えていったのかを垣間見ることができました。

この本を通して、イタリアの辺境の地トリエステという町やそこでの生活を知るだけでなく、目の前に多くの困難があっても目的を達成するためには、あれこれ考える前にチャレンジしてみることの重要性を学びました。この本に出会ったお蔭で、イタリアへの渡航を最終的に決心し、2年間のイタリアでの研究生活で成果を出すことができ、その後、研究者としてやっていく自信が付いた気がします。

皆さんには、ぜひ様々なジャンルの本を読んで、夢や挑戦を後押ししてくれるような本に出会って欲しいと思います。常にチャレンジすることを忘れずに高専生活を共に過ごしていきましょう。

## 本との出会い

自然科学系分野 田中 慎一

今年の秋に待望の第一子が生まれた。まだ生まれたばかりなので泣いてばかりいる。ちょっと落ち着いたところで、寝かしつけようと絵本でも読んでみた。ちゃんとわかって聞いているのかわからないけど、静かに聞いている。大きくなったときに、今日のことは覚えていないだろうけど、おそらく、この子にとってこの絵本は生まれて初めて出会った本だろう。



妻の描いたイラスト：子供と絵本を読む私

さて、自分たちは初めて本に出会った時のことを覚えているだろうか？たぶん、みんな覚えていないか、覚えていてもぼんやりとした記憶だろう。でも、本との出会いは自分たちの人生に大きな影響を与えているはず。たとえば、子供のころによく読む絵本や児童図書の多くは話を通じて、良いこと、悪いこと、人との接し方、友達の大切さなど道徳を教えてくれる。もう少し大きくなると小説も読むようになる。小説では自分とは全く境遇の違う主人公や世界に出会い、それによってまた新しい知見や経験を得ることになる。さらに、中学生くらいになると随筆や評論などを読むようになる。随筆や評論は、作者の思いや考え方がそのまま文章になっていて、それによって自分自身の考え方に大きく影響を与えるだ

けでなく、自分自身に新しい考え方を与えてくれる。このように、本を読むということは、常に自分たちに新しい何かを与えてくれる。

学校を卒業して、仕事をするようになると今度は本を読むよりも文章を書くことが多くなる。特に多いのが報告書だ。報告書は、ただ業務内容を引き継ぐためのもので、そこには個人の考え方や意思は反映されない。しかし、人によっては執筆に携わる仕事に就く人もいるだろう。私自身、実際に仕事をするようになって、何冊か本を書く機会に恵まれた。

報告書と違って、本は自分の考えや思いを込めて文章にできる。しかし、本を書くことはとても大変な作業である。自分の伝えたいことを誤解を与えないように伝えないといけないし、みんなに読んでもらえるような内容にしないといけない。でも、実際に読んでもらえた時に、良くも悪くも自分の考え方を自分の文章を通じてわかってもらえたらとても嬉しいものである。

もう一つ、本を書くことでわかったことがある。本を書くときにはもう一度、自分がこれまでに読んできた本を読み返す。学生の頃に読んだ総説や論評だったり、古いものでは自分が小学校の時に使っていた教科書だったりする。小学校のときに使っていた教科書を探していると、その頃、読んでいた本や絵本も一緒に出てくる。懐かしくなつてつい仕事を忘れて読んでみる。そうすると、簡単な文章の中に実にいろいろな意味が含まれていることに気付く。同じ本でもそれまでの経験やそのときの感情によって全く違う本に見えてくる。そして、また新しい発見をする。

さて、うちの子は今どうしているのかな？あれ！？いつの間にか眠ってしまっている。この子はいったいどんな夢を見ているのだろうか？でも、どこか楽しそうなかわいい寝顔をしている。さあ、次はどんな本を読んであげようかな？

## 読書と私

機械工学分野 尾川 茂

長い企業生活を終え、今年4月から新任教師として、呉高専で教育と研究に励むことになった。

これから自宅から学校までの往復2時間、電車の中が読書の時間だ。慌ただしい企業生活の中ではじっくり腰を落ち着けて読むことはできなかったが、この環境変化を上手く使って、図書館の新刊本など、幅広く読みたいと考えている。

私の学生時代に比べて、最近、ツイッターやLINEなど携帯で仲間とのやり取りに時間を費やす人が増えている。ネット社会は開かれた世界であり、個人と世界とが繋がっている。あーあいいね。賛成・反対とか書き込むが、翌日になると忘れている。蓄積という点では知識が自分のモノになっていない気がする。一方、本はどうかというと、人と繋がらない閉じた世界。本は著者との間の会話を通じて、自分の内なる世界との対話を通じて思考を深めることができる。自分で考え抜いて手に入れた言葉は重たいし、自分の思考が深まったことで新たなことが見えてくる。

なぜ、本を読むのか？と聞かれると、視野を広げ、変化に柔軟かつ迅速に対応していくためと答える。たとえば、私の趣味は将棋だ。戦法も時の流れと共に変化している。その変化に迅速かつ柔軟に対応できないと、惨敗だ。変化の先にある勝ちの局面を探すために、ひたすら手の先を読むのが好きである。勝ちの局面を描けた将棋は勝率が格段に高い。読書で変化の対応の術を学ぶ。

読書は小説・随筆といったものよりも専門書が多い。特に、今は赴任したばかりで、計測工学・機械力学・振動工学・熱機関などの専門書を読む時間が大幅に増えた。わかり易い授業・説明には、理解して欲しいことをできるだけマンガに描いて説明することを心掛けている。なぜ絵に描くかというと、大学時代に受けたゼミの影響が大きい。難解な文章が出てくると、「すぐ絵に描いて説明しろ」との檄が飛ぶ。理解できていないことは絵に描けないことを痛感した。右脳で絵という視覚に訴えて定性的に説明し、そして左脳を使って数式で定量的に説明ができて、初めてわかったという域に到達すると考えている。従って、わからない状態とは、このいずれかがまだ十分に自分の中で解釈ができていないことになる。

最近読んだ本に、小山慶太著の寺田寅彦がある。

東日本大震災が起きた頃、頭をよぎった言葉がある。「災害は忘れたころにやってくる」だ。確か寺田寅彦の言葉と思って調べると、やはりそうだった。

彼が45歳の時に遭遇した関東大震災の体験に基づいた重い言葉だ。寺田寅彦という人物は、確か中学校の国語の教科書の中に出てきた人物であり、一度調べてみたいとの思いもあり、この本を読んで見た。なかなか読み応えのある本である。寺田寅彦という人物と、彼の言動に共感した点を本の中から抜粋する。

寺田寅彦の研究分野は広い。古典物理学から、地震・津波・海洋・火山など古典物理学が適用できる領域、さらにミクロの世界である電子・原子・放射線など研究・興味の対象範囲がとにかく広い。生涯に書いた学術論文は約300編、随筆に関しても多く啓蒙的な科学の解説・紹介も含めると学術論文数を上回るというからさらに驚く。

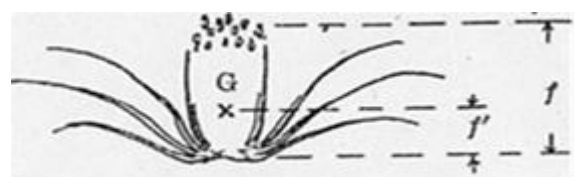
「ねえ君、不思議だとは思いませんか？」とは寅彦が興味のある現象を見つけるたびに人に語りかけた口癖だ。「寺田物理学」という呼び名が生まれたのは、着眼点がユニークで、他の物理学者がまず、取り上げようとはしないようなテーマ、たとえば、藤の実が飛び散るメカニズムや、椿の花が落下して地面に落ちた時、仰向きと俯向きの数より多い機構を紙の円錐を使用した落下実験で分析している。日常身の物理現象をテーマにしている点が面白い。

研究姿勢についても次の一節は共感するところがある。「科学者は実益があるが故に、自然を研究するのではない。自然に愉悦を感じればこそ、これを研究し、また自然が美しければこそ、これに愉悦を感じるのである。アインシュタインの相対性理論は力学と電磁気学の間に見られる座標変換の不整合(醜さ)を取り除き、物理学の体系を美しく統一しようとする思いから生まれたものである。」

科学者は自然の持つ美の追究と体系化、そして技術者は工学現象の本質解明と実用化が夢だ。

学生に教えたことについても、実に共感するところがある。寺田寅彦は、日記に次のように綴っている。「大学が事柄を教える所ではなく、学問のしかたを教え、学問の興味を起させる所であればよい。ほんとうの勉強は卒業後である。歩き方さえ教えてやれば卒業後にめいめいの行きたい所へ行く。歩く事を教えないでむやみに重荷ばかり負わせて学生をおしつぶしてしまうはよろしくない。」

教育についても、詰め込む勉強ではなく、未知の現象の本質が考えられるエンジニアの輩出に努めたいと、改めて思いを強くした次第である。



椿の花の断面の模式図  
(寺田寅彦の論文より)

## いろんな角度から読むと活字は面白い

機械工学分野 西坂 強

本に関する随想を依頼され、久しぶりに本との出会いを綴る機会を頂いたので少しの間お付き合いをお願いします。

私と本との出会いは、遅咲きで中学生の時に異次元空間やタイムトラベルと言ったドラマが TV で放送されたことが発端で、その小説を読みたいと思ったのが始まりです。原作とドラマ化とに設定のギャップがあるということを知り、単純に何故原作通りでないのか大きな疑問を持ったため、その後はあまり本を読むことを積極的にしませんでした。

少し年が経過し、専門書を少しずつ読む環境になった際に、「この本が言いたいことは何かな」なんて斜に構えて読んでいた事を思い出しました。このように本と向き合う姿勢が現在の私の理解力の基礎を作ってくれたように思います。多少捻くれた性格の青年だったのだと思います。そして、ジャンルに対する傾向も文学的な本は殆ど読まず、主に技術系専門書を読んでいました。専門書の読み方も、一つの課題の説明について複数の本を読んで、その内容の違いを比較して「著者によって説明内容が違うんだ」と自己主張ができることに単純に喜んでいました。

その習慣が社会人となってからも続き、出張で出かける際に、ホームで新聞を3種類購入し、同じテ

ーマ（今であれば、「原子力をどうする」なんていうテーマで、原子力発電所についての収束とその方法論）で、各紙によって思想が異なるため、最終的に導こうする結論が大きく異なることに、この新聞はこの考え方よりだなとか、自身が関係し内部情報がよくわかる記事については、各紙のコメントが大きく外れていて、全く違う結論（世論）へマスコミが導こうとしているのかなとか、非常に正確な内容でできているものとかは「なるほど」と同感しながら客観的に読むようになっていました。そして、活字で意思表示するものについて、その著者の考えを理解することが面白いんだと考えて読む習慣ができたのだと思います。

単純に読んで、感想を書いても心に残る確率が少ないと思うのです。私は、読む本は必ず購入し、読み初めの日に目次のページの空欄に「今日から読みますよろしくの気持ちを込め」年月日とサインをします。内容で意見が異なる個所や同意する文書には必ずコメントを書き込み、自分の意思を付け加えた本にしています。そのため、ほかの人が見れば、本を開けるとコメントの落書きだらけの本になっています。しかし、この落書きが後に専門書として読み返す際に非常に役に立っています。読んだ当時の自分の考えに理解不足があり、その不足に気が付かず著者の内容に反論している自分が見えるのも面白いことだと考えています。

活字と向き合うために、いろんな角度から読んでみると本はとても楽しい時間を与えてくれている気がしています。

## 本との出会い方・楽しみ方

電気情報工学分野 山脇 正雄

みなさんはどのような本が読みたくて、どうやって本と出会っていますか？私は学生時代は物語系の本を数多く読んできましたが、社会人になってからは経営的な話や人や文化を知るための本を多く読むようになりました。しかし、キーワードはワクワク・ドキドキするもの（以下ワクワク系といいます）を探して読んでいます。新しいものもありますが、少し古典になりつつあるものに心揺るがされるものがけっこうあります。

そのワクワク系の本にどうやって出会うかですが、出版される本は非常に多いですよ。よく選ばないと、けっこうハズレにあたります。趣味に合う本にどうやって出会うか？これは日々の努力につきるといえます。技術の専門書は本屋でブックハンティングをしますが、ワクワク系の本を本屋で探すのはとても大変です。今売られている本がかならずしも私の趣味に合わないこともありますし、なんせ、ワクワク系するものはジャンルは決まっていなくて、突然日常生活の中で目の前にそのヒントが現れるからです。テレビのインタビューや情報番組を見ているときに突然でてきたり、新聞の記事の端のほうにあったりします。気になったときに携帯電話にメモをとり、少したまってから図書館やアマゾンで探します。

そして読む秘訣ですが、買うより借りて読むようにしています。なぜ借りて読むのか？持っていた方がいいという人も多いでしょう。借りる理由は、1) 期限があるので、集中して読むことができる、2) ためになるところはメモで残さないと忘れてしまう、3) メモのためにはWEBの書評も利用し、自分の感じたところもかならず記載する、4) 読み終えたあと、それでもほしい書籍ならアマゾンで古本などを購入する、ということで十分に本を味わうことがで

きます。さらに、本を持たないことで荷物を少なくすることができます。毎年40-50冊の本を読んできますが、買い直した本は10冊程度ですからかなり効率は良いです。また、この15年くらいでパソコンには200冊近いメモがたまっており、パソコンの検索ですぐさま見つけだすことができます。その本を読んだ時のワクワク感まで思い出すことができるので、私の大切な知的宝物になっています。でも、他人にはあまり価値がないんでしょうね。いずれにしても、良い出会いを求めるなら、日ごろからアンテナを張って情報をキャッチするようにして、良い本であれば記憶に残るようにしておかないともったいないですよ。

ついでに楽しむコツを書いておきますと、やはり読めば読むほど楽しみ方の幅が増えると考えています。たとえば、テレビでインタビューをやっているのを見てると、面白い話が聞けるか聞けないかはインタビュワーの力量によるところが大きいと思います。同じ文章を見ても、それが面白いと思えるかどうかは、本をインタビューする読者の過去の経験などにも大きく左右されると思います。ですから、本を楽しむためには、いろいろな経験を積み重ねながら、たくさんワクワク系する本を読むといいと思います。

最後に最近読んだ3冊を紹介しておきます。少し古いですが皆さんのこれからの生き方を考える上で参考になるかもしれません。詳細が知りたい方はWEBで調べてください。

シーナ・アイエンガー 選択の科学  
文芸春秋 (2010年)  
今一生 社会人企業家に学べ！  
アスキー新書 (2008年)  
長谷川英祐 働かないアリの意義がある  
メディアファクトリー新書 (2010年)

ついでにもう一言 物語系を読むなら「本屋大賞」のノミネート作品がお勧めですよ。



## 考察力を高める読書

環境都市工学分野 谷川 大輔

「環境」という分野で研究にずっと携わってきた身として、学生さん達に良く言うことは、「情報をそのまま鵜呑みにせず、自分で正否を判断出来る能力を身につけましょう」ということだ。環境技術、自然エネルギー、再生可能エネルギー、そんな言葉を聞くと、何となく良いイメージが浮かぶのではないだろうか？基本的に、技術のPRにはメリットを前面に出すため、どうしてもその裏にあるデメリットに気付かなくなることが多い。メリットとデメリットの双方を理解した上、最善の技術を判断出来ることが、技術者に求められることであるため、技術者の卵である学生さん達には、その力を身につけて欲しい。

そこで、今回は、今まさにトピックとなっている、原発、エネルギー問題についての本「夢で語るな日本のエネルギー 鈴木光司/山本隆三 著」を紹介したいと思う。この本を選んだ理由は、読みながら納得と疑問のどちらも持つことが出来そうな内容であったことと、著者の一人が鈴木光司さんと言う、私の好きな作家さん（ホラー映画で有名なリングシリーズの著者である）であったからである。私自身は、広島出身でもあるため、本音のところは反原発である。しかしながら、原発を全て止めて、それを全て自然エネルギー（太陽光発電、風力発電等）や再生可能エネルギー（バイオマス発電等）で賄えるかと言われると、それは無理だということも理解している（私自身、再生可能エネルギーに関する研究にも携わっている）。著者らのスタンスは、「日本の経済発展、安定した電力の供給、地球温暖化防止のため

には、原発は必要」という物であり、様々なデータを提示してその根拠を説明している。また、脱原発派の人達の意見に対する反論も、論理的に展開している。読んでいて、納得する部分は非常に多かった。例えば、「太陽光発電や風力発電で上手くいっている他国を例に挙げて原発は不要だと言うが、日本と風土が全く異なる国の事例をそのまま日本に反映させることは出来ない」という意見や、「再生可能エネルギーを取り入れることによって電気料金が上がっても節電すれば良いと言うが、元々ギリギリの電気しか使っていない貧困層の人達はただ負担が上がるだけ」という意見等は、ごもったもな話である。

詳細に関しては、興味のある方には是非読んでいただきたいのだが、私からひとつ、疑問を持ったことは、著者らは「廃棄物の処分」や「事故が起きた時の対応」と言った部分に全く触れていなかった点である。私は廃水や廃棄物処理と言った、物を作って最後に出て来る不要な物を処理する技術の開発を専門としているのだが、実はこの部分にかかるお金は決して少なくはない。放射性廃棄物の処理方法に関しても、私の認識ではまだ不透明な部分が多い。また、福島原発の事故から2年以上たった現在においても、全く収束しておらず、その見通しもたっておらず、かつ様々な問題点が浮き彫りになっている状況である。この様に、著者らは脱原発派のデメリットには触れているが、自分たちのデメリットには触れずに論を展開している。そう言った意味で、最初に書いた様に納得と疑問のどちらも十分に持つことは出来る本であった。この後、技術者に求められるのは自分なりの結論を導き出すことである。私にとっての結論は、今後の自分の研究活動に活かしていく予定である。是非、学生さん達にも、自ら考察する力（考察力）を高められる様な本と、多く出会ってもらいたい。

## 行事報告 平成25年度第1回ブックハンティング

学生会 文化・環境委員長

西岡 伸健

今年度の第1回目のブックハンティングは、8月2日（金）に開催されました。当日は前期期末試験の最終日で、参加してくれた4年生、5年生の委員から疲れが感じられました。しかし、そんな中でもきちんと定刻通りに集まってくれたので、大きな問題もなく開催することができました。

ジュンク堂書店広島駅前店に行ったのですが、その中はとても広く、数多くの専門書も取り扱っていました。1人1万円という予算の中から選び

買ったのですが、高専では専門的なことを学ぶので、専門書を選ぶ学生の姿もありました。自分も何冊か専門書を買ったのですが、一冊が結構高価なので1万円という予算でも少ないように感じられました。もちろん専門書のほかにも小説なども買っていました。

自分はとても楽しみながらやることができました。選んだものが却下されたりもしましたが…。参加して本を選ぶ際には慎重に選びましょう。

委員長としてはもちろん、過去1度も参加したことがなかったため、行く前はすごく不安でしたが、いざやってみるととても面白かったです。後期のブックハンティングは1, 2, 3年生が参加する予定なので、ぜひ楽しみにしていただきたいと思います。

## ブックハンティング図書紹介

### TOEIC テスト 公式問題で学ぶボキャブラリー

N. K.

TOEIC 対策をするには、多くの問題を早く解けるよう訓練するのが大切だが、その前にきちんとボキャブラリーを増やし、わからない単語がほとんどない状態にすることが、まず大切だと思ったのでこの公式本を選んだ。

### ふたりの距離の概算 (角川文庫)

O. T.

「古典部」シリーズ5作目となる作品。省エネ主義の主人公折木奉太郎が、学校に関わるささいななぞを解いていくといった、ミステリー作品。一年生だった4人の古典部も二年生に。ミステリーとしても良質ですが、同級生の古典部員の千反田えると折木君はくっついてほしいなと思います。

### 二級建築士設計製図課題完全対策 平成25年度

T. T.

1, 2年生の時、製図をどう書いたらいいかわからなかったのが1, 2年生がこれを見てもっと製図技術をあげてもらおうと思い、この本を選んだ。それと、自分が製図について非常に興味ある内容だった。

### ヴェンゲル・コード アーセナル、その理想の行方

K. K.

イングランドプレミアリーグの常勝チームであるアーセナルを長年率いているヴェンゲル監督が書いた本です。アーセナルがなぜ毎シーズン勝てるのか、ヴェンゲルの裏の顔まで見られる貴重な1冊です。

### アカデミック・スキルズ(第2版) 大学生のための知的技法入門

S. H.

あなたは、一体なんのために勉強をしているのか分かりますか？授業で教えてもらえるのは「知識」だけで、意外とその目的については教えてもらえません。この問いに唯一の答えは存在しないのですが、この本を読むことによって、その「解答案」の1つを垣間見ることができるはずです。

### 人の心を動かすリーダーの超チューニングカ

U. H.

高専生はいずれ部下を持つ人が多いと思います。良い上司となって活躍して欲しいと思ったのでこの本を選びました。この本は様々なリーダー本のまとめたような内容なので、他のリーダー本を読む前に読んでみてください。

電子戦の技術 基礎編

T. M.

本書を選んだ理由は、研究分野が電磁波関係ということもあり実践的な技術解説書が欲しいと考えたからです。基本軍事で使われる無線技術の話ですが、この技術は他方面の現場でも使用できるものではないかと思えます。



第1回ブックハンティング購入図書リスト

書名	著者	出版社	ISBN
入門日本の名建築	松崎照明監修	洋泉社	9784800301253
歴史的町並み再生のデザイン手法	小林正美	エクスナレッジ	9784767814629
プロとして恥をかかないためのゼロエネルギー住宅のつくり方	西方里見	エクスナレッジ	9784767815831
二級建築士設計製図課題完全対策 平成25年度		井上書院	9784753021048
住宅エクステリアのパス・スケッチ・プレゼンが上達する本	松下高弘	彰国社	9784395023097
最高の建築をつくるデザインのルール300 新装・カラー版	彦根アンドレア	エクスナレッジ	9784767815602
イラストでわかる建築構造	伊波一哉	ナツメ社	9784816350368
ステップアップで実力がつく 構造力学徹底演習	鈴木基行	森北出版	9784627465619
図解 一番やさしい構造力学	高木任之	日本実業出版社	9784534047526
すぐに役立つ構造力学	羽切道雄/前林和彦	彰国社	9784395021024
基礎からわかる[最新]建築・土木のしくみと技術	井上国博他	ナツメ社	9784816351730
2級建築施工管理技術検定試験完全攻略問題集—絶対決める! (改訂3版)		新星出版社	9784405037069
イラスト 建築不静定構造力学入門	岡島孝雄	東洋書店	9784885951961
建築の仕事につきたい!	広瀬みずき	中経出版	9784806139546
「落水荘」のすべて	三沢浩	王国社	9784860730543
解いてわかる! 水理		オーム社	9784274212475
水理学(改訂増補版)	小川元/山本忠幸	共立出版	9784320073968
マトリクス法による「構造解析」	藤井文夫	工学社	9784777517626
製品開発に役立つプラスチック材料入門	舊橋章	日刊工業新聞社	9784526055171
新訂 初級金属学	北田正弘	内田老鶴園	9784753655519
図解 はじめての材料力学	荒井政大	講談社	9784061557970
機械力学—振動の基礎から制御まで	日高照晃	朝倉書店	9784254237313
トroidal CVT	田中裕久	コロナ社	9784339045505
はじめてのスターリングエンジン	小林義行	誠文堂新光社	9784416807392
機械設計技術者試験問題集(平成25年版)		日本理工出版会	9784890196296
基礎からわかる図解・自動車メカ		ナノオプトニクスエナ ジー出版局	9784764955103
図解入門よくわかる最新電気自動車の基本と仕組み	御堀直嗣	秀和システム	9784798028682
図解入門 よくわかる最新 摩擦と摩耗の基本と仕組み	広中清一郎	秀和システム	9784798026190
表面科学の基礎		共立出版	9784320033733
例題で学ぶ伝熱工学	小山敏行	森北出版	9784627674219
電気図鑑	理科教育研究会	技術評論社	9784774158150
基礎から学ぶ電気回路計算	永田博義	オーム社	9784274501852
電子戦の技術 基礎編	デビッド・アダムー	東京電機大学出版局	9784501329402
読むだけで力がつく オペアンプ基礎回路再入門	岡山努	日刊工業新聞社	9784526054969
一番わかる! 電磁気学演習	浜松芳夫	オーム社	9784274214004
カラー版 図解半導体ガイド	株式会社 東芝	誠文堂新光社	9784416107126
マイクロウェーブ技術入門講座 基礎編	森栄二	CQ出版	9784789830409
はじめてのプラズマ技術	飯島徹穂他	森北出版	9784627786110
光計測ポケットブック		朝倉書店	9784254210385
図解入門 はじめての人のためのテスターがよくわかる本	小暮裕明	秀和システム	9784798030098
アカデミック・スキルズ(第2版)—大学生のための知的技法入門	佐藤望編著	慶應義塾大学出版会	9784766419603
わかっちゃおう図解 遺伝子	都河明子	新紀元社	9784775309490
橋野の”難問図形”問題集 —高校入試の数学・図形問題を厳選!	橋野篤	技術評論社	9784774145839
最新バイオ用語辞典	廣川秀夫他	講談社	9784061538788
ベーシックマスター 分子生物学		オーム社	9784274203206
中学数学でわかる統計の授業	涌井良幸/涌井貞美	日本実業出版社	9784534050991
第2版 シュツツ 相対論入門 ハードカバー版	江里口良治/二間瀬敏史	丸善	9784621083093
サイエンス・クエスト 科学の冒険	アイリック・ニュート	NHK出版	9784140815410
高校の化学がキホンからわかる本	小池興次郎	学習研究社	9784053029041
化学の基礎	竹内敬人	岩波書店	9784000079815
高等数学公式便覧	河村哲也監訳	朝倉書店	9784254111385
第一級陸上特殊無線技士問題・解答集 平成25年版		誠文堂新光社	9784416113455

書名	著者	出版社	ISBN
意外と知らない世の中の「なぜ?」(英文快読)	ニナ・ウェグナー	IBCパブリッシング	9784794602183
TOEICテスト 公式問題で学ぶボキャブラリー		国際ビジネスコミュニケーション協会	9784906033447
新TOEICテスト はじめてでも600点が取れる!	山根和明/アラン・クリスト	成美堂出版	9784415200729
3Dプリンター革命 モノづくり・ビジネスが変わる!	水野操	ジャムハウス	9784906768196
図解 シェールガス革命	泉谷渉	東洋経済新報社	9784492093078
「脱原発」を論破する—今、日本人の知性が試されている!	長浜浩明	東京図書出版	9784862236456
原発テレビの荒野: 政府・電力会社のテレビコントロール	加藤久晴	大月書店	9784272330744
迷走・暴走・逆走ばかりのニッポンの教育: なぜ、改革はいつまでも続くのか?	布村育子	日本図書センター	9784284304610
人の心を動かすリーダーの超チューニングカ	小林英二・倉成央	株式会社シーアンド アール研究所	9784863541252
小さくても、勝てる。	佐藤寿人	幻冬舎	9784344024120
一流(はじめりゆう)	森保一	ベースボールマガジン社	9784583105246
ヴェンゲル・コード アーセナル、その理想の行方	リチャード・エヴァンズ	カンゼン	9784862551962
攻守のセオリーを理解するサッカーセットプレー戦術120	倉本和昌他監修	池田書店	9784262163444
オランダに学ぶサッカー戦術練習メニュー120	林雅人監修	池田書店	9784262163321
体幹力を身につける コア・ストレッチ	木場克己	成美堂出版	9784415314488
DVD付き カラダをリセット+体幹力UPのコアトレーニング	木場克己	成美堂出版	9784415312972
体幹力を上げるコアトレーニング	木場克己	成美堂出版	9784415311661
トレーニング指導者テキスト 実技編	日本トレーニング指導者協会編著	大修館書店	9784469267112
ひろしまうららかさんぽの2	和佐由紀子	ザメディアジョン	9784862502179
県庁おもてなし課	有川浩	角川書店	9784048741828
レイン外伝—仄暗き廃坑の底で	吉野匠	アルファポリス	9784434104121
高校入試	湊かなえ	角川書店	9784041104798
三毛猫ホームズの闇將軍	赤川次郎	光文社	9784334077136
交差点に眠る	赤川次郎	幻冬舎	9784344009356
ふたりの距離の概算(角川文庫)	米澤穂信	角川書店	9784041003251

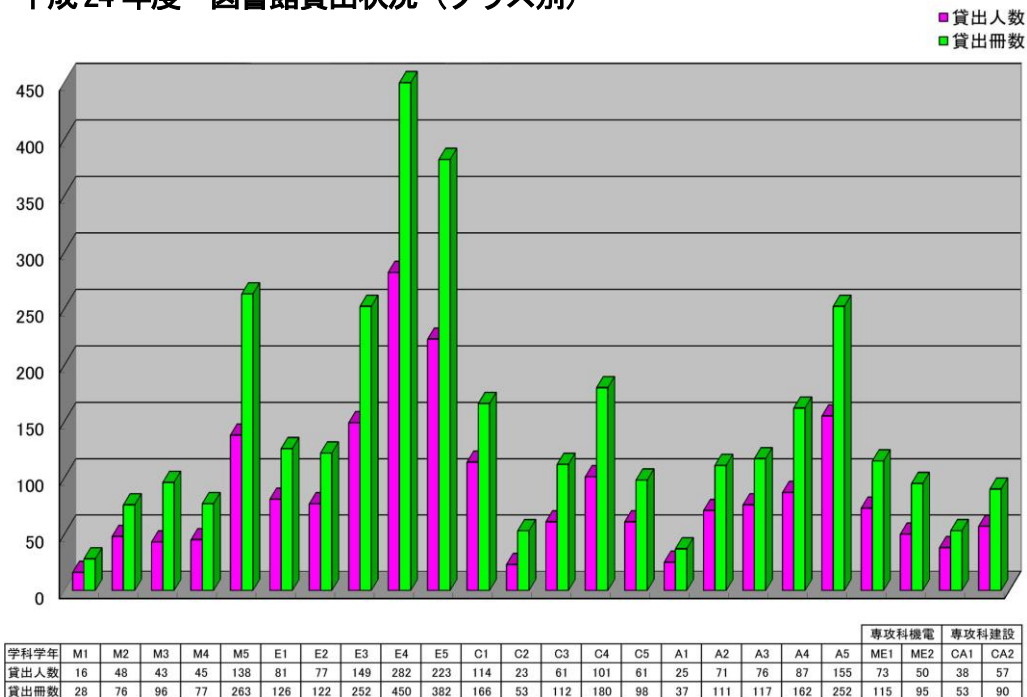
【表紙】 高専の夏

太陽みたいに輝いているひまわりが高専の夏を知らせてくれているようでした。  
太陽のようなひまわりの表情を撮りました。

(撮影：呉高専建築学科 1年 杉原芽依)

お知らせ

・平成24年度 図書館貸出状況(クラス別)



編集後記

図書だより第55号をお届けします。最近試験問題集の貸し出しが多く、図書館が皆さんの勉強に役立っていることをうれしく思っています。私も図書館の本を利用して何か勉強してみようかと考えています。

最後に、今号の発刊にあたりご多忙にも関わらず原稿を執筆していただきました方々にお礼申し上げます。